

令和7年度第2回箕面市総合教育会議

◆ 日時：令和7年11月7日（金）10:00～12:00

◆ 場所：箕面市役所本館3階 委員会室

◆ 出席者：

【箕面市】

原田市長

【箕面市教育委員会】

藤迫教育長、高橋委員、飯田委員、酒井委員、荒木委員、桑野委員

【事務局】

久下教育次長、藪本局長、今中担当部長、浅井担当部長、三島副部長、高取学校教育監、濱口担当副部長、山田担当副部長、山根担当副部長、遠近担当副部長、渡邊室長、新井室長、野村担当室長、赤城室長、乾室長、多々館長

◆ 傍聴人：11名

◆ 議事内容

（事務局：藪本局長）

- 定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第2回箕面市総合教育会議を開催いたします。
- 本日の司会進行を務めます、箕面市教育委員会事務局子ども未来創造局長の藪本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- それでは早速本日の1つ目の議題「箕面市教育大綱実行計画2025中間報告について」に移らせていただきます。本件は年次計画を定めた教育大綱実行計画2025に基づく取り組みの実施状況についてご報告をさせていただきます。
- まず、お手元にある資料1、箕面市教育大綱実行計画2025の中間報告の資料の構成についてご説明いたします。この中間報告の資料は、箕面市教育大綱実行計画2025における重点事項、学校教育、子育て施策、生涯学習社会教育ごとに記載しています。
- 具体例を1点ご説明させていただきますと、1ページ目の学校教育の重点目標①小・中学校9年間の授業で英語が話せるまち箕面の実現の3つのダイアマークは箕面市教育大綱実行計画2025で定めた年次計画を反映しています。この計画に対してこれまでの取組と今後の方向性を記載しています。
- なお、できるだけ意見交換の時間を確保するため、教育委員会事務局からの報告は、ポイントを絞った端的な報告となる旨ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。それでは事務局から説明よろしくお願いいたします。

（資料1に基づき事務局から説明）

（事務局：藪本局長）

- 各担当からの説明が終わりましたので、意見交換に移りたいと思います。

- ご意見ご質問がある方につきましては挙手にてお願いいたします。

(箕面市教育委員会：荒木委員)

- おはようございます。教育委員の荒木です。
- 大綱に基づいた様々な政策であったり、新たな事業展開、学校現場について等、ご説明ありがとうございます。
- 私は新しく強化されたことよりも、土台の部分をしっかり見ていってほしいということを改めてここで発言しておきたいと思います。
- 学校教育について、4ページの③番で、学習支援体制の強化についてなんですけど、教育現場は今年度、教職員の定数拡大であったり、支援員の拡大等を進めていただいています。教職員の定数拡大も大事なんですけど、(2)番に書いてある校内教育支援センターの支援員の配置についてなんですけど、現場で授業を教える先生というより、事務の負担や、煩雑になっている業務を軽くすることが、授業に集中できる環境を作る上で重要じゃないかと思います。私も会社を経営する立場で、そういう事務負担について、現場で動く人よりも事務を支えてあげている人の方がより力強い営業力を発揮できるというか、子どもたちにとっても教えやすい環境をつくれると思っていて、そういった働き方の質の向上にも繋がっていくと思うんです。
- ですので、支える人材に対する投資、支援というところを土台の部分として、しっかり見ていってほしいなと感じております。
- 現状、スクールロイヤーであったり、表に出やすいことやわかりやすい話が多く出ていますが、こういった土台のところをより強く感じて、進めていただけたらというふうに思っています。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 私は以前病院にいたことがあったので、いろいろなところで言ってるんですけども、今の学校は、ドクターしかいない総合病院みたいだと思います。何が言いたいかというと、患者さんを診察することが主務のドクターが、予算を作ったり、備品、医療機器や医療材料を購入したり、あるいは病院の中の美化をどうするかを考えたり、安心安全で施設に支障がないか、不審者が入ってきたらどうしようかということやドクターがやっている。結局ドクターがどうなるかということ、患者さんを診察する時間がないんですということになるんです。
- そういうドクターしかいない総合病院ではだめなので、こういう支援員等を入れながら、その教員でなくてもできる仕事と、教員でなければできない仕事を分けていくということは今道半ばですけども、大分予算と人をつけていただけているので、当時に比べるとうまくいっているのかなと思います。

(箕面市教育委員会：桑野委員)

- 教育委員の桑野です。よろしく申し上げます。
- 荒木委員がおっしゃったように、本当に変化してきて、子どもに直接関わる人たちの時間が十分に取れるようにということで、様々な人が学校現場に入ってきていただいたなと思っています。
- それはここで書かれている、校内支援センター支援員も活用できていますし、教育長がおっしゃった教員・教頭事務支援員、予算の方にも書かれていますけど

れども、様々な立場の人が、教育長がおっしゃったように、教員でない人が担うことができるところの仕分けをして、随分と整理が進んできたなと思います。

- 次の段階は、中間報告から最後まで繋がることですが、それでどうだったという効果検証、これが継続性に繋がる重要なものだなというふうに常々思っておりますので、後程語られると思いますが、効果があるという事案を全校で共有して、それをもとにまた更なるフェーズに進んでいくということが重要ではないかなと思いますので、今で満足している場合ではないですし、子どもたちの状況がよりよいものになるためには、歩みを止めることはできないと考えますので、そういった意味で、引き続き人員配置や学校のニーズに応じたプラスの人員を配置していただくということが、検証の上、実現すると、子どもたちや、子どもたちのご家庭、保護者の方々、市民の皆さまが、よりよい健全育成にプラスになることならばと、ご理解いただけるのではないかなと思っています。
- ですからさらに継続、そして向上を目指していくべきかなと今のところは考えております。大事だと思っていますので、ぜひそんな視点で進めていただきたいと思っています。

(箕面市：原田市長)

- 荒木委員、桑野委員ありがとうございました。
- 我々どうしてもスクールロイヤーとか、わかりやすいところに手を打ちがちやというご意見もあったんですが、やっぱり今、桑野委員からも言っていたように、人を増やすというのはすごくお金がかかることで、今後も継続的にかかっていくというところで、なかなかハードルが高い部分があるんですけども、この間様々な支援員の配置をさせていただいて、例えば教頭事務支援員なんかも、効果検証させていただいて、十分効果があるということで今回予算要求も全校分されているんだと認識をしているんですが、我々は住民に説明をしないといけないので、費用対効果がしっかり出るのかというところの検証はしっかりなされないといけないと思っていますし、本当に人でないとダメなのかと。
- 今回生成 AI で、校務 DX を図るための予算も要望させていただいていますけれども、そういう DX で解決できるところがあるのであれば、そういったものを活用していかないと、人を新しく配置するというのはそれだけ費用がかかることで、我々としても少し慎重にならざるを得ないところもご理解いただきたいなというふうに思っていますし、配置するのであればしっかり効果も検証した後に、教頭事務支援員もそうですが、最初は数校でスモールスタートさせていただいて、本当に効果があったら全校に広げると手順を踏まないと、市民に説明もしていかないといいませんし、人手不足は学校現場以外のところも全庁的に起きているところでもありますので、そういった効果もしっかり見極めさせていただきたいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 原田市長の方から、AI の話を出していただけありがたいなと思っていますが、まさにそういうことだと思っています。人だけではなくて、今のこれだけ技術

が発達してますので、AI や ICT を導入することによって、人で棲み分けるのではなく、世界で棲み分ける。

- 先ほど説明がありましたように、保育所不足の一因には処遇もありますけれども、保育士が働きがいを持って働き、働きたいと思えるかどうかという、処遇と働きがいの2つが合わさらないとだめだと思います。
- 頑張っただけの方は予算をつけていただけてますけども、働きがいはどうだということで、今回まさにその ICT をできるだけ導入して、ICT で処理できるものは処理していきますので、考え方は学校現場も保育所現場も一緒だと思いますので、頑張っていきたいなと思います。

(箕面市：原田市長)

- ICT の予算に言及しましたが、この ICT、生成 AI の事業は今回 29 万 8000 円の予算要求なんです。29 万 8000 円で全校でやるということなんです。
- 人を置こうと思うと、数百万円かかってくるわけで、そうなるともう予算感が全然違ってきます。人を配置するのがもちろん一番いいと、手当してきたわけですが、仮に何かこういう新しい技術であったりとか、何か違う仕様で代替できるのであれば、そういう道もしっかり模索をしていっていただきたいなと思っています。

(箕面市教育委員会：桑野委員)

- 先ほどの発表報告の中でも、次の段階ですね、現状こうであるということとそれから今市長からもおっしゃいましたが、ステップアップ調査であったりとか、いろいろなエビデンスが感じられる発表を聞いておりますとですね、さらにこうしなければならないところに来ているなという実感がございます。
- 先ほどの文言でいきましたら、個々のレベルや興味に応じた学びを推進するであるとか、英語の発信力であるとか、ICT を使いこなすのところでおっしゃったタブレットのドリルに個々に応じた個別最適化の教材が入っているであるとか、そういったことは本当に今、市長や教育長がおっしゃったことに合致していることだなというふうに思うんですね。
- 1 点入ってますけれども、今回のステップアップ調査等の報告を聞いていますと、新たなもので、英語の発信力に繋がる AI の導入であるとか、先日第五中学校に ALT を活用した事業の視察に行かせていただいたんですが、その中の子どもたちのつぶやきからも、それは感じました。「これどう言うたらいいかな」、「それがわかれば言えんねんけどな」というような子どもの発言からも感じました。
- 課題になっております家庭学習、その中でタブレットを毎日必要を感じて持ち帰りをしていっている中で、その必要に応じた個別最適な家庭学習で、AI が入っている家庭学習の材料が提供できれば、個々に子どもたちがまた取り組むのではないかなと思います。
- それが一般には修学前のイングリッシュスクールのようなものが担っているというような記事を最近拝見したんですけれども、それはやはりタブレットを持っている子どもたちが必要と感じる課題を提供することによって、発信力もアップできるのではないかなと感じておまして、この中間発表の中でそういうことを感じ取らせていただきました。

- それから、学校給食の話が先ほど出ましたが、箕面市は全国学校給食の大会で大阪府の代表になって、第4次審査で通過できなかったと聞いておりますけれども、ICTを利用した動画作成で、また次のコンテストに参加したような情報もいただいております。
- やはりアレルギーにすごく配慮した箕面市の給食が一定評価を受けたということは非常に嬉しいことですし、この給食のスタートにあたっては、全ての子どもたちが美味しく給食を食べることができるように、様々な意見の中で決まっていって、3月まで子どもたちが喜んで給食をいただく様子を目の当たりにしてきましたので、全国に一定の評価を受けられたことは、本当に喜ばしいことだなと感じておりました。

(箕面市：原田市長)

- ありがとうございます。私はエビデンスに基づいていろいろやりたいという人間で、箕面市の学校給食はすごくおいしいと言っていたらであれば、証明してほしいということを最初の総合教育会議でお伝えをして、今回学校給食甲子園に出場していただいたら、初出場でこのように素晴らしい結果が出て、来年も出場をしていただけるということをお聞きしておりますので、来年は優勝をめざせると私自身も思っていますし、先ほどの件もそうですけども、教育行政というか、教育は結果が10年後とかに出たり、すぐには出ないということで、検証がなかなか難しいところではあるんですが、そうは言っても何か指標がないとだめだろうというところで、学校給食がおいしいと言うんだったら、どれぐらいの立ち位置にいるか調べてみようということで、今回学校給食甲子園にエントリーしましたと。
- これは別の話ですけども、ライブラリーオブザイヤーに船場図書館が優秀賞で選んでいただいたりとか、あとは今回のステップアップ調査で、例えば教員の皆さんにアンケートを取ったらですね、これよく議会でも学校教員が疲弊してるんだという意見が特定の政党から出ますけども、結果としては7割以上がやるべきだと、そういう教員からの声もあって、そういうエビデンスに基づかず、闇雲に議論するとそういう声が出てしまうので、何でもしっかりと証したいという考えを持っていますので、例えば先ほどの英語教育についても、さいたま市とどれぐらい離されているのか、さいたま市はもうすでに抜いてるんじゃないのかと、その辺りをしっかり明確にして、どうやったら抜けるんだとか、どうやったら全国1位になるのかと、そういうことをしっかり調べてやっていただきたいなと、市長部局から教育委員会に対して求めたいと思っています。
- ただ、教育は時間がかかるので、目先の指標を追うだけではだめだということはあるんですけども、我々には説明責任がありますので、例えばALTであったり、ステップアップ調査をやるのにはすごくお金がかかっているわけです。だからそれに対しては成果がないと、なかなか市民の理解は得られないのかなと思っていますので、そういうところは我々は意識しているところなので、引き続きよろしく願いいたします。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- まさにステップアップ調査等は、エビデンスを取ったりしている市はそう多くないと思います。ただ、課題として、先ほど出たアンケートというのは、多くの教員が必要だと言っているんですけども、次の段階としてそのエビデンスとして持っていることをどう生かすかというところで、少し今苦慮してる部分もありますけども、それもコニカミノルタさんのAIを分析して、そのデータを持っているからこそ、その子に合ったドリルを一人一人持ってるタブレットに発信できるということで、まさにエビデンスから始まっています。
- これもよく言うんですけども、4年生の子どもが算数でつまずいてるけれども、実はAIで分析すると2年生のときの九九がまだ完全に理解できていなかったというエビデンスが出てくるんです。その子については、その九九に関わるような算数のドリルが出てくるようになります。でも隣に座ってる子どもにはまた違う課題が出てくるということで、エビデンスを持ってるからこそ次に繋がるという1例ですけども、そういったことを、タブレットが1人1台あって、エビデンスを持ってAIを活用するということを、組み合わせさせてやっていくということが、荒木委員のおっしゃった課題にも繋がるのかなと思いますので、そこをしっかりとやっていきたいと思います。

(箕面市教育委員会：飯田委員)

- 箕面市の公教育の1つの特徴といいますか、架け橋期カリキュラムを構築しているというところですが、今本当に小学校中学校、いろいろな視座でお話をする中で、是非とも幼稚園や下の未就園児にまで持って行っていただきたいというところがあります。
- DX化に関してもそうですし、業務DXもそうですし、内容ですね、そういう質の部分も、できるだけ幼稚園、保育園まで落としていただきたいと思うんです。
- この10ページに書かれています、3ヶ月から1歳児のために、お母さんたちにいろいろな、支援をする本をお渡ししたり、いろいろなサービスを提供されているというのは、私自身も働きながら育休産休をとって、1歳半までは子どもたちと一緒に過ごして、そのあと自分のキャリアを積んでいったんです。だいたい1歳ぐらいまでは子どもとママ1年生という感じで、子どもとどういふうに二人三脚をしようかっていう日々になりまして、1歳越えたら子どもも歩き出して、何となく自分も自分のキャリアを考え始めるというところで、そういうときに保育園が、保育士さんの質がきちり担保されていて、ここにお預けしていたら安心安全で自分のキャリアを積んでいくことができると感じられる受け皿は絶対に大事だと思うんです。
- 懸け橋プログラム等を上手く使っていただいて、これで小学校中学校高校と、子どもたちがどんどん大きくなっていくなかで、自分もまたキャリアが積めるというイメージが取れるだけで、お母さんお父さんは随分楽になると思いますので、そういう施策に関しては、予算措置等々をお願いしたいなと思っております。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- まさに、それができるのが箕面市の教育委員会の組織なんです。
- 0歳から18歳までドラスティックに寄せてる市というのは、なかなかないんですよ。国はすぐに子ども真ん中と言うけども、子ども真ん中だったら組織も

一本化しないと、何歳まではこっちに来て、何歳になったらこっちに来てということが今の国の組織はそうなっているんです。ただ、箕面市は一本化できている教育委員会なので、そこはしっかりやっていきます。

- おっしゃっていただいた架け橋プログラム、これもなかなかはじめは進まなくて、未就学の方の組織は、小学校へ行くところをスムーズに行かせたいという意識が高かったんですが、小学校側は、当初なぜそんな必要があるのかということで、かなり否定的だったんですけども、現場の職員が頑張ってくれて、日本の中でも誇れるぐらいのレベルで丁寧にやってくれてましたので、教育委員さんに研究授業を見てもらいましたけども、非常にうまくいっているなど、小学校側の意識が非常に変わったなと思っていますので、そこもあわせて引き続きやっていきたいと思えます。

(箕面市教育委員会：高橋委員)

- 教育委員の高橋です。使える英語への意識改革というところで、先日西小の運動会に参加させてもらったときに、玉入れのところでALTの先生が玉の数を数える際に、子どもたちと一緒に英語で数えていました。すごいなと。英語の授業だけではなく、横断的にいろいろな現場で英語を使うという機会を提供することで、ますます使える英語が浸透していっていると思っています。
- 教育委員会の皆さんもそうですし、学校現場の皆さんがいろいろ工夫されて、教育委員会が言われてることだけではなく、いろいろな形で使える英語を模索していただいているんだなということで、本当に感謝したいなと思っています。
- また、スクールロイヤーに関しての説明があったんですが、配置ができたというところで、実際まだあまり期間は経ってないんですけども、今の時点で現場での評価、そこまであるかどうかかわからないですけども、ご本人が実際に勤められてみてどう思われているのかというところで、もしご存じだったら共有していただければと思いますが、今の段階で何かお話できることはありますでしょうか。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 1点目の英語の話で、そういう場面を見て、評価いただいてありがたいなと思っています。
- 大阪府の中でも自治体によっては、英語イマージョン教育といって英語を他の教科で使うということをやろうとしている自治体もあるんです。国語はどうするのかわかりませんが、理科も算数もやろうというふうの方針は立てておられるようですけども、なかなか難しいということで、今現実的には、やりやすい体育でモデルとして実施している自治体はあるんです。それを聞いて、箕面市の場合は、特定の教科で英語イマージョン教育をしなくても、学校の中に複数のALTがいますので、自然にそういう環境で、教科でそういう環境を作るのではなく、もう日々英語漬けで、英語が身近にあって、日常的に英語に触れるという環境ができています。これはお金をたくさんつけていただいている成果だと思います。
- 2点目で、スクールロイヤーさんは非常に、期待以上に意欲的にやっていただいているかたで、もう既に幾つも課題があるところに的確に、教育政策室長の横に

居てますので、リアルタイムで、いやこれはだめだとか、これはこういう発信の仕方までにとどめておかないとこうだろうということで、かなり言っていたいていますので、ありがたいなと思っていますし、学校現場に対しても、闇雲に相談がくると対応できませんので、一定のルールのもとに相談してくださいということで発信しておりますので、学校現場も助かっているのではないかなと思います。

- また、今日の新聞にも出てましたが、2、3日前から出てますけども、東京都の教育委員会がカスハラ対応の条例を作ったということなんです。今日の朝に言ったことなのにこんな公開の会議の場で言っていていいかわかりませんが、スクールロイヤーがついたんだから、我々も条例を作っていくと時間がかかるので、教育委員会の中でそういうガイドラインみたいなものを何か作ってみるのはありかなと思っていますので、発言しておきます。

(箕面市：原田市長)

- 確かに我々市役所組織は、カスハラは20分で打ち切るという20分ルールを新しく設けたり、窓口対応の職員が対応が難しいとなったときに使うSOSボタンを窓口を設置させていただいたりするということかなり厳しいカスハラルール決めをしたんです。これは、現場の職員に頼っていたらなかなか打ち切れないので、20分という基準を定めてあげることによって、これはもう決まっているのでということが言えるように、熱中症指数に近いところがあるのかもしれないですが、現場任せにせずに、指標を定めてあげることによって、ルールなのでという対応をしやすくなるというのは、確かに教育現場もあるなということを変更して気づきましたので、そういったことも考えていただいたらいいのかなと思います。

(箕面市教育委員会：高橋委員)

- 学校の支援員のかたのお話がちょっと上がったと思うんですけども、先ほど市長からも費用対効果等のお話があったと思うんですけども、どうしても小規模校だったら費用対効果は小さくなるのかなと思うんですけども、大規模校であればあるほど、効果がやすいと思うので、学校単位というか、中学校区単位でそういう組織化を図ったりすることも考えてみてもいいのかなと思いました。
- もちろんおっしゃったように生成AI等を使ってもっとコストを抑えて、足りないところを人で動かすというところで、それは学校単位ではなくもっと広い範囲で動けるような人を配置するというのが最終的な落としどころというか、そういうところになるのかなというイメージをしています。
- また、定量評価を希望されているところがあると思うんですけども、なかなか教育の分野では、私自身も何度か同じようなお話をさせていただいたことですが、実際は定性評価でないと評価できない部分があるというところなので、むしろ定量評価だけではなく、どのように定性評価を扱うのかというところにもお考えを持っていただければありがたいなというところで、僭越ながら意見ということでよろしく願います。

(事務局：藪本局長)

- たくさんのご意見ありがとうございました。
- それでは今年度の取組結果につきましては、本年度末に開催予定の総合教育会議で改めてご報告する予定ですので、どうぞよろしくお願いいたします。
- では2つ目の議題「箕面市教育委員会の所管に係る令和8年度箕面市一般会計当初予算について」進めさせていただきたいと思います。
- 資料は資料2「箕面市教育委員会の所管する所管に係る令和8年度箕面市一般会計当初予算について」をご覧ください。
- なお、すでにこの資料内容につきましては、本日ご出席の皆様にご説明済みであることから、事業ごとの説明は割愛させていただき、概要のみ教育政策室長からご説明させていただきます。

(資料2に基づき事務局から説明)

(事務局：藪本局長)

- それではこれらの事業について、各教育委員の皆様から市長への要望等ございましたら挙手にてよろしくお願いいたします。

(箕面市教育委員会：荒木委員)

- 荒木です。よろしくお願いいたします。
- 一般会計の予算拡充の件で1点だけ改めて申し上げます。自習室の件です。自習室の拡充は、不登校であったり、家庭に居場所がない子どもたち、そういう子どもたちの居場所づくりでもありますし、家庭の学習格差を埋める大事な施策だと思っていて、現状利用する子どもは若干減っているというふうに一方では聞いていて、運営の人材も少なくなっていて、同じ人がやっているというところもあるので、そういったところへの支援が、教育大綱にもあった、多様な学びの機会の保障に繋がってくるのではないかと考えているので、学校だけじゃなくて、学校でできないことを、自習室でするために、市と連携してできるようにするために、こういう予算拡充を事務局の方から訴えていると思うので、これは力を入れていってほしいなと思います。
- 先ほどの支援員の拡充の話と同じなんですけども、同じく人には繋がると思うんですけども、その辺りの再配分は、DXも大事なんですけども、DXって使う人によって様々で質も変わってくると思うので、子どもたちに直接接する人の力というのは、教育は10年かかると市長おっしゃっていましたが、これはそんなにかからないのではないかと考えていて、例えば3年前と比べて、今は教育行政の中身も変わっていると思うので、10年かかることに対してお金を配分できないと言うよりも、結構人の力って、それこそエビデンスが大事だと思うんですけど、その効果というのは地域の立場として、信じていただいて、先ほど高橋委員もおっしゃったように、定量評価でするのでなく、というところを改めて感じていただきたいなというところで、居場所づくり、自習室を拡充することは力強く申し上げたいと思っております。

(箕面市：原田市長)

- 実習室は私も力を入れてやりたいと思っています。市議会議員の時から思いとしてあって、よく当時の中央官庁ともっと拡充すべきだと言って、要望し続けてきた身からすると、やっぱり自習室はしっかり整備していかないといけないという強い思いを私自身も持っていますので、同じ方向を向いておりますのでよろしくお願いします。

(箕面市教育委員会：桑野委員)

- 新規のコミュニティスクールの事業に関して、今から6年ほど前にコミュニティスクール及び学校地域支援ネットワーク事業を東京に視察に参りました。
- 当時は彩都と箕面小学校で、コミュニティスクールはまだ置いておいて、地域支援ネットワーク事業ということで、地域保護者の方のボランティアをまず始めようということで始めまして、徐々に複数の学校に広がって、地域から入ってきていただいて、子どもの実態に応じてサポートいただくということが非常に有効に進んでおります。
- 先ほどの話にもあった民間プールのバスに乗っていく教員の数も限られているので、そういうときにはサポートの方に入っていたりというふうに進めてきたんですけれども、先日室長から説明を受けまして、努力義務ということで変化したんだなということで、これは先行で地域支援ネットワーク事業を進めていて、効果も出ているという中で、さらに国が求めている学校運営協議会というものを開かねばならない時期が来たというふうに考えています。
- これがなくてもですね、既に三中と五中校区は学校協議会というものを校区単位でやっておられますし、令和8年から彩都と止々呂美でと書いてますが、もちろん彩都でいえば1から9年の皆さんで学校運営協議会をしていますので、今まで別々にやってたわけでは決していないので、設置予定というところがどうなのかなと思いますけれども、これにお金をつけて何に使われるのかと先日質問しましたら、メンバーへの報償費というものが必要となっているということで、いよいよコミュニティスクールを始めていかねばならないタイミングだということ認識していますので、努力義務ということで延ばし延ばしにやっていくこともできないのかなと思いますと、新規ですけれども、必要なタイミングになったなというふうに思っております。ですので、やらないというわけにはいかないのではなかろうかと説明を聞いて思った次第です。

(箕面市：原田市長)

- 彩都で保護者とも触れ合ってきて、そう感じていただいているのかなと思ってはいるんですが、地域によって思いに差があるのではないかととも思います。
- やっぱり保護者のかたがどれぐらい学校に興味を持っていただいている、学校の運営にいろいろな意見を言うていただける環境がどこまであるのかというところと、中学校の部活動を令和9年度には地域に展開していく中で、この学校運営協議会の設置に伴う教員の負担がどれぐらい出てくるのか心配するところもあたりするんですが、そのあたりの教員の負担感についてどう考えておられますか。

(箕面市教育委員会：桑野委員)

- 実際に行って参りましたけれども、全員が出るわけではなく、ミドルリーダーが担っていますので、全体を知っているものが質問を受けて、答弁しなければならないという雰囲気ではございませんので、学校が地域に開かれたものであるように、いろいろ思っておられることをお聞きして、現状や取り組んでいることをご説明したりしますので、地域の方全員お呼びするわけにもいかないんですが、貴重な機会だなと思っているんです。
- 折に触れても、地域の方の会合に学校が出向いていってお話伺ったり、「最近ちょっと遅く子どもたちの姿を見るから心配やで」とか、あるいは「心配やでと声かけたよ」とか、そういった様々なことから、学校の取組にご意見をお持ちのかたとかもすごく吸収できるのでね。
- 私は非常に有意義で、参加されない保護者さんには、学校のお便りを配信しますから、その中でどういう内容のことがお話に出ましたっていうことも報告しますので、広くお呼びして体育館で意見交流はできないものの、やっぱり意識を持った方々を増やすという意味で非常に有効なコミュニケーションの機会かなとは考えています。

(箕面市：原田市長)

- ありがとうございます。
- 例えば、危険箇所安全点検等、地域の子どもたちを地域で守るという強い意識を持っていただいている箕面市において、コミュニティスクールをやるという機運が出てきているということは、それだけ学校運営に責任を持って、地域の皆さんや保護者の皆さんも関わっていきこうという意思の表れで、すごく喜ばしいことだと思えます。
- ただ一方で、自治会も負担が大きいという議論がなされていたり、守る会であったり、指導員であったり、PTA等を負担に感じておられて、役員をやっているのが同じ人ばかりだという議論もあったりする中で、どこまで継続的に学校運営に関わっていただけたかを集められるのかというところは、1つ大きな課題になってこようかなと思っていますし、学校の先生方が、部活はボランティアでやっていただいているという中で、教育的なところではない中でこの学校運営協議会への関わりというものがどういう位置付けになるのかなと。
- その辺りの教員が感じる負担のところも少し気になりますけれども、ただ総じて、コミュニティスクールというのは地域力の高まりの表れだと思っていますので、喜ばしくは感じているんですが、そういうところを心配に見ているということはお伝えしておきます。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 学校協議会というのが小学校単位で既にあるんです。でするのでコミュニティスクールになったから何か負担が増えるとかいうのはそれほどないのかなと、これはもう何年も経って定着していて、学校ごとにやり方は地域の特色があるので、ある学校なんかですと、学校側と地域の方が設定した課題についてワークショップみたいなものを開いたりしていると。
- そうやっていろいろ和気あいあいに、今後この学校はどうあるべきか、どういう課題があるのか、いろいろな方法でしていますので、それほど負担というのではないのかなと思っています。

- ただ、先ほどおっしゃっていただいたように、三中校区と五中校区は、それを中学校区でやろうというところについては、少し導入の時点では小学校という地域の強さがありましたが、結論的には、うまくいっていると。
- それこそ負担になるので大体1学期ごとに3回ぐらいやってたうちの1回は中学校区でやろうというところから、スモールステップで始めてかなりうまく進めるようですので、それもする一方でコミュニティスクールも進めていくんですけども、その中学校単位でどうするかということも進めていきたいなと思います。

(箕面市教育委員会：高橋委員)

- 外国人の児童に対する日本語指導支援事業に関してですね、これに関して意見をさせてもらえたらと思っています。
- 市長もご存じのように、最近いろいろなところで外国の方が増加しているところで、これは国が政策として招いてこられてる外国人が大勢いる中で、本来は国がこういう教育費用等を用意して実施していかないといけないことだとは思いますが、そういうことをしていない中で、どうしてもし寄せが末端の市町村に来ているという状況だとは一応理解はしているんですけども、かといって放っておくわけにもいかないと思いますので、ぜひ箕面市の方でも、外国から来られている子どもたちが、スムーズに日本の生活に馴染んでいけるようなレベルまで、日本語を教えられるような体制を整えていただけたらありがたいなと思っています。
- 理由はこの子どもたちのためというよりは、どちらかというとならを取り巻く環境、そしてそれを取り巻く箕面市民の方々のためで、言葉が通じないことで起こる様々なハレーションを回避するためには、単純に言葉を教えるのが一番シンプルなのかなと思いますので、なかなかそうは言っても日本語指導員というのも数が限られてる中で、どこまでできるのかはわかりませんが、今はいろいろとオンライン等を活用して安価で日本語を学べるツールもたくさん世の中に出回ってるので、そういったものをぜひ活用していただいて、あるいは紹介していただくだけでもいいのかなと思うんですけども、何とか箕面市にもともと住んでる子どもたちと、外国から来た子どもたちが、うまく融合して、箕面市で育ってよかったと最後言ってもらえるような、そういう教育施策をお願いできたらなと思っています。
- 本来は国がすべきことだとわかってはいるんですけども、それまでの繋ぎでも結構なので、ぜひお願いしたいなと思います。

(箕面市：原田市長)

- ありがとうございます。
- 箕面市の公立学校に通う子どもたちが、外国籍であろうとそうでなかろうと、教育格差がないようにしたいというのは、私の前提としての思いがあります。
- もちろん、外国人にお金を使うんだったら日本人にお金を使えというような議論は議会でも出てる議論ではあるんですが、今は日本のパスポート保有率が、もう2割を切って17%ぐらいになっていて、世界に出ていかず、内向きになっていってる中で、この島国日本がこれから世界と戦っていかないといけないという中で、世界から外貨を獲得して、日本にもたらしていくみたいな発想も絶

対に必要で、世界に出ていっていない状況の中で、こういう外国人の子どもたちが学校の中にいる環境は、絶対その日本人の子どもたちにとってもプラスになると思っていますし、世界に目を向けるきっかけになろうかと思っています。

- ですので、例えば先日ナウル共和国パピリオンと連携協定結んだんですけども、小さな島国、実はハット市ととても近いんですけども、その島国から世界を見るきっかけにしてほしいなということで、結ばせていただいたんです。
- ですので、こういう子どもたちがいることによって、お互いの文化を認め合うことであつたりと、世界の窓を開いていきたいという思いが私自身もあるので、必要な投資だと捉えています。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 高橋委員がおっしゃっていただいたことは、支援教育にも似ているところがあります。
- 過去から言うと、年々支援の必要な子どもたちが増えてきて、その都度増えてきたから、こういう対応しようと、また増えてきてはこういう対応をしようと、言い方が悪いですがその場しのぎのような対応を続けてきたんですけども、これは皆さん御存じのように、先ほど説明がありました箕面市支援教育充実検討委員会というものを立ち上げて、保護者に入ってもらって、まずは支援教育をどうするんだと、必要な人的配慮やお金についてはどうするんだという、箕面市は支援教育をどうするんだという方針として、箕面市支援教育方針を作った上でするんですよ。今まではその場しのぎできていましたので、同じことが言えると思っています、日本語の指導が必要な子どもがだんだん増えてきたからこうしましょう、また増えてきたからこうしましょうというものではなく、中で今話をしてるのは、箕面市は今後どうしていくんだという基本方針をしっかりと定めた上でやっていこうと決めた上で、この方針を目指すんだつたら、こういう手当が必要ですねというやり方でいく必要があると課題を認識していますので、これはまた事務局で叩き上げてどういう方向でいくのか、また意見をもらいながら進めていきたいなというふうに思っています。

(箕面市教育委員会：桑野委員)

- 市長も言ってくださっていたんですが、ステップアップ調査の課題を拝見して、その解決のために、次の段階だなという思いはしております。
- これまで、16年とか前ですか、英語をどんどん伸ばしていこうということで、ALTさんも増えていきましたし、それから一斉授業ではなく、そのクラスの中で何ヶ所かに分かれて話すチャンスを作ろうということで、複数配置もされましたし、一定効果も挙げる、成果もあったわけなんですけど、先ほど申しました視察の際にも感じたんですが、個別に皆さんいろいろな状況ですので、どの子どもも興味を持っているので、成績だけでなくということ、英語コミュニケーション科が特区として箕面市では認められて、毎年ホームページに各校が成果を上げておりますけれども、そういった中で、市長もおっしゃいましたが、さいたま市がですね、非常に成果を挙げているということで、どういうことをやっておられて成果に繋がったのかということ、を数年前から思っております、このたび視察に行かれた結果をちょっと漏れ聞いたところ、いろいろな手

だてを進めておられるということで、箕面市もスタートダッシュよく、始めていって成果も挙げたんですけれども、ここへ来て、次の方策を立てないといけないなという現状を先日の視察で感じたところです。

- それは言いたいことを持つということはもちろん、子どもにとって大切に、それを英語で表現するという次の段階で、言いたいと思うけれども、どう言うのかわからないという中で、スマホ等でしたら最近翻訳ができたり、個人的なものだったら生成 AI の機能も非常に、チャット GPT 等が使われてはいるんですが、授業の英語コミュニケーション科であったり、それから申しました、家庭の持ち帰りのタブレットの有効活用ですね。そのあたりで、今日これを言いたかったけど、できなかったなと言って、タブレットで調べてみようかという、次に進む手だてをですね、子どもたちに与えていくことによって、表現したいことはたくさんあるはずなので、お力添えを、市の方でも考えていただけたらいいなと思ひまして、今回新規で出ておりますけれども、箕面の教育を、少し大きな言い方ですけども、さらにバージョンアップさせることに繋がる方策ではないかなと私自身も拝見しました。結果を出しながら、広がっていくと、さいたま市を抜くとか、そんな具体的なことではないんですが、いいところを模倣しながら、箕面市らしさをさらに大きくしていくといいのではないかなと思ひます。
- 基本的に子どもたちの英語に関する興味関心の深さというのは、視察された方からお聞きしても、やっぱり箕面の子たちは修学前から ALT さんに触れてやってきてますのでね、素地はあるという話も聞いたりしますと、ここからさらなるバージョンアップをすることによって、冒頭話されていましたが、9 年間で英語を話すまち箕面という目標が掲げられてるということですから、そこに繋がっていきますし、ただ話すだけではなく、伝えるとか繋がるとか、今年は万博もありましたから、繋がっていくためのツールだと私は思っているんで、英語が話せたらいいということだけではなく、思いを伝えるためのツールとして英語を使いこなしてもらいたいなということ、昔からずっとそういう目的で進んできたように思っておりますので、是非ともこれは新規ですけども、実現に向けていただけたらなと、大事なことはないかなというふうに考えております。

(箕面市：原田市長)

- 私はこれはいいなと思ひています。
- 先ほど話していた生成 AI の話は業務支援のところ、今議論いただいているのは AI と英語の発信力強化事業の件だということですけども、ALT を各校に 3 から 4 人配置しても、フィリピンであったりハット市とオンラインでビデオ通話をして、それでも会話できる子というのは限定的なんです。なるべくコミュニケーションを取る機会をもう、全ての子どもたちに広げたいということで、そういう他の市にはないような取組をしているんです。
- とは言っても、限定的なところをどうクリアするかということで、今回英語授業に AI を活用するというのは、まさに最近の英語教育、英語学習で、携帯で AI と会話するみたいなことがこれでできるようになると、子どもたちが自分のタブレットに話しかけて、自分で英語のコミュニケーションをタブレットと取

れるということで、かなり会話する機会がこれをもって増えるのではないのかなと、すごく期待をしているところです。

- もう1点大事な視点は、英語を話せると言うには、どこまでできたら話せると言えるのかということがありまして、例えば今英検3級以上の割合は中学3年生で約8割です。
- これでも英語を話せると言ってもいいんじゃないかなと思うところがありまして、私自身も海外へ行ったときに、単語で会話したり、身振り手振りで会話しても通じるわけです。
- ですので物おじせずに、ここまでできないと英語しゃべったらだめなんだということではなく、今の中学校まで修了した単語であったり、日常会話レベルで十分通じるんだということは私自身は思っているので、大事なのはそこで物おじせずに、堂々とコミュニケーションをとるという姿勢かなと思っているので、英語教育でそういう部分を養いたいし、積極的にコミュニケーション取りたい、この人と話したいんだけども、この単語知らないからしゃべるのをやめようとなるのではなく、わからないなりに道案内してあげたり、そういう要素も必要なんだろうなと思っているので、英語を話せるまち箕面って英検3級以上の割合が100%でないだめということではなくて、そういうところも養ってあげたらですね、英語が話せる、堂々とコミュニケーションが取れるようになればいいなと思っています。

(箕面市教育委員会：桑野委員)

- まさにそれが7・8・9年生の英語コミュニケーション科なんですね。
- わざわざ総合の時間を1時間もらって、それにしたのは、教室でのレギュラーという教科書を主にする授業とは違って、6年生まで積み上げた英語への慣れ親しみを、市長もおっしゃったとおりで、伝えたい思いや、単語だけでも十分なんですが、伝えようとする行動というか、そこに照準を当てて始まったものなので、そういうことは大事にしながら、一方で、英検も学力という部分が非常に強いかなと思うんですが、両方とも目指していくということが大切だということで始まっていますので、中間報告にも英語コミュニケーション科のことが語られていますが、本当にそうだなと感じます。
- 私も英語の教員で始まって、長く関わりを持ってきましたので、まさにそう思っておりまして、今は授業の方式が随分変わっているんですが、そこでは活躍できなかった子が英語コミュニケーション科では、物おじせずにALTに向かっていくことができたり、グループワークで発言できたり、そういったことが本当に大切だということで、箕面市がこういう形をとられたということが本当に大切なものだと思ってきましたので、市長のおっしゃるとおりだなと感じながら、ますます次のフェーズに行ければいいなと思っていますので、心強く聞かせていただきました。ありがとうございます。

(箕面市教育委員会：飯田委員)

- 保育幼児教育の質の向上の部分に対して今回、新規で認定子ども園の整備事業が見込まれております。
- 以前、視察でせいなん幼稚園と、桜ヶ丘保育所の方に視察に行かせていただいて、公立のこども園を観させていただいたんですが、私は私立のイメージが大

きかったので、公立はそもそも必要なのか少し疑問に思っていたんですが、視察に行つてすごく思ったのが、支援の子どもたちの比率が多くて、学びの最後の要になっているなど感じまして、公立のこども園は必ず必要だと思った次第です。

- ただ、ここに保育士さんの給料に少し差があったりして、働き手の問題で、そういう確保の部分も必要ですし、新たにこども園を開設する際に、トイレ等多目的であったりシャワーが必要であったり、普通に思わないところの、幅をきかせたような設備が必要になってくると思うんです。
- 今年度はこういう形ですけれども、来年度は多く積むような予算になると思うんですが、そこは子どもたちの学びの場として必要かと思しますので、お願い申し上げます。

(箕面市：原田市長)

- いろいろ現状を観ていただいたということで、私も本当に西部・中部・東部に公立園が絶対必要だという強い思いがあったので、今回方針を変更させていただいたところでもありますので、私も思いは同じです。

(箕面市教育委員会：酒井委員)

- 少し抽象的な話にはなるんですけども、今回予算の要求事業一覧の中で、AI に関するところが2項目あると思うんですが、私はぜひ何とかお願いしたいなと思っています。
- 前回の総合教育会議でもお話しさせていただきましたけれども、AI を利用するとか、IT 化とか、公務 DX 化とか、私は市役所の中に日頃なくて、外からここに来るとすごく違和感を感じます。いつペーパーレス化するのかなど。私はここに来たときから言っているんですけども、2年半経ってもその見込みもないですし。
- 教育に AI を取り入れていくということに関しては、徐々に徐々に進んでいくのかもしれないですけども、世界一を目指すのであれば、真っ先に取り入れてやってみて、やってみたらいろいろわかると思うんですけど、そもそも英語に力を入れてる箕面市で、英語に AI を取り入れなければ、国語や算数や数学、理科や社会に絶対取り入れられないと思うので、まずはやってみて、これは市長が教育委員会の自主性や自立性を尊重して、言ってきてくださいと言っているみたいですけども、これは市長から言わないと、絶対進まないと思うんです。
- やっぱこういうことに、大きく舵を切って、やっていくかやらないかは、もし企業だったら存続に関わる話だというくらいの意識を持っていると思うんです。
- 市長はいろいろ発信されていて、フェイスブックからも発信されていて、最近では mixi の笠原さんとお会いしたり、そういう人たちと接すると、見ている視点や業務の進め方が全然違うと思うんです。そういう機会は市長が一番あると思うので、そういうことをどんどん落とし込んでいただきたいと思います。私はもっと AI やそういう分野の予算要求があってもいいのかなと思っています。
- 次回の総合教育会議でも同じ話をさせていただきます。

(箕面市：原田市長)

- これは本当に難しいなと思っていて、例えば市役所のDX化でしたら、全職員デスクトップパソコンを廃止して、ノートパソコンを全職員に配布して、その中に生成AIを入れるというような思い切った取組をできるんですけども、教育現場となるとなかなか難しく、箕面市がパイオニアとして先んじてやるといふ発想も大事ではあるんですけども、子どもたちを実験台にはできないという思いもあって、どうしても本当に成果が出るのかというところの確信を得てからでない、なかなか1歩踏み出しにくいところが私にもありますし、教育現場の先生方にもきっとあろうかと思えます。
- ですので、今タブレットをすごく使っているところと、あまり使われていないところの格差等もあろうかと思えますので、何か新しいことを教育行政という形で、子どもたちに向けて第一人者でやるというのが、結構勇気が要ることだなと思っています。完全に成果が出るということであれば踏み出しやすいんですけども、少しここは慎重に、割と大胆に進めている方だとは思いますが、ここは少し慎重になっています。
- 後で注文を付けようと思ってはいたんですけども、例えばタブレット学習においても、低学年においても本当に必要なのかと、タブレット学習に伴う弊害もきっとあろうかと思っております、ずっとタブレットばかり見て運動しなくなっているんだとか、目が悪くなっているんじゃないか等、いろいろとご意見もいただいている中で、このタブレット学習の弊害をどう乗り越えていくのかというようなところも、もう少ししっかり考えていただきたいなと思っています。ファーストペンギンになる勇気がここにおいては、なかなか出にくいところなんです、どうでしょうか。

(箕面市教育委員会：酒井委員)

- タブレットを使って目が悪くなる等はあるかもしれないですけども、私はそれは心理的な話で、やりたくないからそういう言い訳を考えているんだと感じます。
- 正直、私は市長にという言い方をしましたけども、市長が全部考えてやる必要はないと思っていて、いろいろな諮問機関やそういうものを作って、専門家を集めて市でどういうことができるのかということ、現場も踏まえて挙げてもらって、そこから優先事項等を決めて抽出していく。そういう作業をなぜこういう分野ではあまり皆しないのかなと思うんです。
- それはトップランナーになろうと思ったら絶対必要なんですけども、何となく豊中市もやりだした、池田市もやりだした、吹田市が始めるらしい、だったら箕面市もやろうではどんどん前に進めないかと思っていて、箕面市が引っ張っていくような形でやるべきではないのかなと思っています。市長はまだお若いんですけども、それでもこういう世界からは、少しついていけないという部分もあるかもしれないですし、私は是非そういう機関を作ってでも、そこに費用かけてでもやってもらいたいと思います。
- 例えば、市議会とかは平均年齢でいうと結構高いと思うんです。今日は今ここにいらっしゃる皆さんはパソコンを持っていますよね。だからそういうノートパソコンを持ってやるような時代になって、タブレットを使ってペーパーレスになっているので、そういう機関を作ってチェックしてもらって、こうなんだという意

見をもらう場があれば、別に判断を誤ったという話ではなくて、前に進めることができるのかなと思っています。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- まずは教育委員全員にタブレットを配布して、ペーパーレスで定例会議をスマートフォンステップとしてやります。場合によっては、昔のコロナ禍のようなことが起こったと想定して、次はオンラインでやるということを宣言しておきます。

(事務局：藪本局長)

- たくさんのご意見ありがとうございました。市長も真摯に答えていただきましてありがとうございました。教育委員会事務局としても頑張っていきたいと思っています。
- 次の議題に進めさせていただきます。3つ目の議題「部活動地域展開事業について」に移らせていただきます。それでは、担当から説明を申し上げます。

(資料2に基づき事務局から説明)

(事務局：藪本局長)

- 説明が終わりましたので、議題「部活動地域展開事業について」の意見交換を進めたいと思います。ご質問ご意見あるかたは挙手をお願いいたします。

(箕面市教育委員会：荒木委員)

- かねてから部活動の件は教育委員会の協議等でも話し続けてきている中で、ようやく各校区での説明会も終わりつつ、市長においても市長と語る会等いろいろな話をしている中で、地域としては、理解はできたけどもまだ納得はできていない、納得せざるを得ないんですけども、納得できていない状況は続いていて、家庭が感じるハードルであったり、教職員のかたは思っていないかもしれないんですけども、家庭側、地域側からすると、部活動は多様な学びの場所だと感じている保護者の方も一定数いる中で、安全面や保障等の費用の面は間違いなく、今事務局の方から説明あった以上のことが必要になってくると思っています。
- お金の話ばかりで申し訳ないんですけども、地域は行政側が考えるより、地域クラブはここまで補助してくれたら立ち上げやすいんじゃないのかということで、結構手を挙げてるところもあって、例えば地域の協議の場でも、団体数が市が考えてるより大幅に増えた場合はどうなるんですかという質問も出ているんです。ですので、地域目線で言うと結構ポジティブに考えてもいい状況ではないかと思っています。
- 立ち上げを補助することで、地域クラブは増えたけども、続けていくことが難しくなってくるときもあると思うんです。ですので、ここには書いていないんですけども、続けていくために支援する仕組みは、令和9年から始めて、その次年度以降の方向性も考えて今回の予算プラス、その先の予算も見据えて検討してほしいと思っています。
- 先生がいなくても続けられる部活動を、何か制度として、仕組みとして作っていかうとしているんですけども、先生と地域と一緒に子どもを支える部活動に

していけたら、それが結構箕面市らしいというか、箕面市の取組が全国に示されたら、成功だとか失敗だとかはないと思いますけども、いいことに繋がるのではないかと考えています。

(箕面市教育委員会：飯田委員)

- サッカーや野球等の受け皿がまだできていないということで、どうやって学校の方でそういう場を設けるかということで、今回投光器等の予算を入れさせてもらっていますが、まずはニーズがある部分の受け皿というところを早急に準備していかないと、この目標値ですね KPI は今まだ 50%にもならないということで、今後積み上げていく上で、そういう整理の部分は必要ではなからうかと思っています。
- A クラスが全部準備できた後にですね、いろいろ事業者であったり、地域の NPO 等にご協力いただきながら、子どもたちの生涯学習の入口としては面白いかなと思っています。ただそこは子どものニーズがあるわけではないので、大人が受け皿を出しても、そこに乗るか否かというところは子どもによるところになると思います。
- 先ほど荒木委員もおっしゃったように、持続的にするには、スタートアップは補助金があるけれども持続はどうするのかということも考えつつも、今のスタートアップをしているのかなと思っておりますので、部活じゃない学びができたという、いいスタートに、今後の子どもたちが、昔は部活があったけど地域クラブでいろいろなことができて楽しかったと思えるような箕面市でありたいと思っておりますので、設備の方よろしく願いいたします。

(箕面市教育委員会：桑野委員)

- よくここまで整理していただいて、見通しを持っていただいたなと、3月まで現場にいましたので思うところです。そういう意味では近隣と比べますと、箕面市がファーストペンギンになったと。
- 整えてからのスタートでは持ちこたえられないといういろいろな事情も、重ねては言いませんけれどもありましたので、ここまで積み重ねていただいて、進めていただいているということに本当に感動を覚えています。
- 子どもたちなんですが、放課後が心配だというお声がたくさんあるということが説明会の報告でありましたが、テストの1週間前は部活動は停止ですし、文化部ではその専門ではない、例えば英語の先生が科学部の顧問をしていたり、お仕事がお休みのとき週1・2回外部の専門家のかたに来ていただくというような形でやっておりました。
- ですので、見えにくいかもしれないんですが、文化部は子どもたちに非常にニーズがあると思っています。バリバリスポーツ系の運動部でやっている子どもたちはもとより、そこに生涯スポーツとの繋がりが、ヒントがあるんじゃないかなと思うんです。
- 市役所に来るようになりましてから、いろいろな方々が教室に向かわれる場面を見まして、お元気でご挨拶されながら、体操とかいろいろやっておられて、入っていかれるのを拝見しますと、そういう拠点が市役所だけでなく、東・西・中央にあれば非常に行きやすいだろうなというのを想像して、いつも早めに行きましたらそういう方々のエネルギーを感じているんですね。

- ですから子どもたちも、生涯スポーツに繋がる視点で、よく飯田委員がおっしゃるんですが、そういうところの入口として見れば、今あるものを利用したりすることができないかとも思うので、スポーツにかかわらず、支援のお子さんとか、1つ挙げてくださってますけども、ボッチャ等誰もが気軽にできるスポーツも入れていただいているのは大事な視点だなと思いますし、元気で運動が得意なお子さんのことだけを考えるのではなく、子どもたちはいろいろな子どもが多様にいるので、近くの学校でということは難しいとしても、少し行けば何かの活動が、学校を超えてあるというのは本当に素敵なことだなと思いますし、そういう関係性が、例えば中学校であっても続いていけば、とてもいいことだと思いますし、地域の子どもたちが少し地域を外れても、地域で繋がっていくという方向にいけるのではないかと、非常に希望を抱いております。
- ですので、立ち上げのところではいろいろなお金が必要になったり、かからなかった部活費用の支援も考えていただいているので、やりながらというところも確かにあるのかなと思いますし、そのためには予算を取ってやっていかねばならないということもわかりながら、子どもたちにとって、箕面の子どもたちが箕面の皆さんと繋がっていけるものという視点があれば、地域からも力添えしていただけるのではないかなと、このところお元気なシニアさんにお会いしていて、すごく思っておりますので、無理なく続けられる活動というものを追求するというのも1つ視点に入れたいと思って伺っておりましたので、よろしく願います。

(箕面市教育委員会：酒井委員)

- 私はピンチなのか、チャンスなのかでいうと、結構チャンスなのかなと思っていて、1つの中学校に、閉鎖的にといいますか、活動範囲が限定されていたのが、大きな範囲で活動することになるので、それを上手く利用するという視点も大事かなと思っています。
- 令和9年度が迫ってきているので、期限の方に意識がいつてしまうんですが、私は令和19年、10年経った後どうなっていたらよかったと、うまくいったと言えるのかという絵を描くことがすごく大事だと思うんです。
- この9ページに、私はずっと気にはなっていたんですけども、いろいろ箕面の地域クラブが書いてありますが、対象学年がバラバラなんです。地域展開がスタートした後、部活動は中学生だけのものなのか、小学校から始まって中学校から高校と、一部吹奏楽は高校3年生まであって、高校生は高校で部活をするので、基本的には中学校3年生までを想定していると思うんですけども、小中一貫教育やいろいろな幼少の移行期の話等、結構大切にしてくれているのに、この部活動に関してはその辺りはどうなのかなと思っています。
- いろいろなパターンがあってもいいと思うんですけども、教育の中で、地域クラブでの活動をどう位置付けるかというところは、ある程度発信して、イメージを持っておいた方がいいのではないかなと思います。それが10年後に繋がると思っているの、その辺り市長はどうお考えなのか、ご意見を伺いたいと思います。

(箕面市：原田市長)

- 酒井委員からご発言いただきましたけども、私は部活動の地域展開については、すごくポジティブに捉えています。
- 部活動がなくなると言われると、すごくネガティブに聞こえるんですけども、令和9年度から、子どもたちが専門家の指導の下、多様な学ぶ機会を得られるということで、体験格差等をなくすことができますし、生涯学習にも繋がっていくと思っています。すごくいい取組になると私は確信をしています。
- 保護者の方が懸念されている大きなところで、費用のことと、活動が担保されるのかということ。もちろん安全面等のこともあるんですけども、主にこの2つの部分がポイントになってくると思います。
- 費用の部分は習い事代助成をやらせていただきたいということで、選挙の公約にも掲げて、認めていただいているものだということなので、議会のご承認をいただきましたら、そこはしっかり担保します。まだ費用をどの程度の助成にするかということは議論している最中なんですけど、例えば8,000円や1万円の範囲の中で、2つ行っても3つ行ってもいいという形にすれば、今までトライできなかったこと、例えば週1回お茶を習いに行ったり、将棋を習いに行ったり、バレエ教室に行ったり、何かいろいろなことを体験できる場になりますし、そういう場がしっかりと用意されるのかということところは、今は部活があるのでなかなか地域から新しく生まれないということがありますが、令和8年度からそういう場を生み出すための促進をして、新しい場を用意していきたいと思っています。そのための補助金を今要求していただいているというところでありますので、私はきっと生まれてくると思っていますし、今地域のそういう場は、子どもたちが来なくなって、主に文化活動のところは結構苦しんでいるんです。バレエ教室や、少年野球等もそうですが、子どもが来なくなっていると。
- 今後は部活をしていた子どもたちが流れてくることによって、むしろそういう教室が息を吹き返すことになるとも思っていますので、箕面の文化活動全体も盛んになっていくのではないかと考えています。
- そもそも教員のかたにとっても、部活動に割いていた時間を子どもたちの教育にしっかり向き合うことに使うことができるようになるということで、私はかなりポジティブにとらえているので、懸念材料をなくしていくということも含めて、しっかり発信をして、保護者の方々の理解を得ていかないといけないということを改めて感じているところです。
- 私はチャンスだと捉えていますし、ポジティブに捉えているので、子どもたちの多様な学ぶ場をこれからもしっかりと確保していきたいなと思っております。
- また今回、生涯学習分野、社会教育分野を市長部局へ移管するという点について、強い覚悟を持って、本当にこの部活の地域展開もそうですが、生涯学習分野、社会教育分野を市長部局に移管するということは、本当にコペルニクスの転回で、かなり大胆な取組だと思っているんですけども、それだけ強い思いを持って、ここはしっかり拡充していきたいなと思っています。
- 子どもたちも、体力の課題はずっとありまして、なかなか明確な答えを出すことができていなかったんですけど、この部活動の地域展開が体力向上に資するものになるかとも思っておりますので、前向きに捉えています。
- 10年後には、地域に多様な学びの場があって、今まで子どもたちの選択肢は1つの部活だけだったものが、いろいろな学びを選択できるようになっていると。習い事代助成もすることによって、家庭環境にとらわれず、体験格差等も

なくなっていくって、教員の負担も軽減されて、教員のかたは子どもたち一人一人にしっかり向き合う時間をとれて、素晴らしいものになっていると確信をしていますので、しっかり説明をしていきたいと思っています。

(事務局：藪本局長)

- ご意見ありがとうございます。それでは最後に、その他でございますけども、もう少し時間がございますので、市長、教育委員の皆様から教育・子育て施策全般について何か意見交換されたいことがございましたら、よろしくお願いいたします。

(箕面市：原田市長)

- 先ほどの話にも出たタブレットなんですけども、本当に何とか考えてほしいなと思っています。
- 前回 AI ドリルが取り上げられていましたけれども、保護者のかたから箕面の教育は素晴らしいと言われるのかなと思っていたら、タブレット学習なんかだめだという声が意外と多くて、家では時間を決めているのに、学校ではずっとタブレットを触っているのではないかとか、家でずっと動画ばかり見ているとか、プログラミングという名のゲームばかりしているとか、それによってグラウンドで遊ばなくなっているのではないかとか、いろいろ心配されているところが多いなと思いました。そういった保護者の不安な声に応える何かを考えていただきたいと、繰り返し言っているところでありますので、その件は何とか策を考えていただければと思います。
- 難しいことですが、ICT 教育を進めていきたいというところを教育大綱に書いてる中で、そのような葛藤は少しありまして、何とかクリアしたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
- 不登校の居場所づくりについてですが、不登校の子どもが活躍できる場所づくりも力を入れたいなと思っておりますので、そういったところも考えていただきたいですし、報道で不登校の子どもが、オンライン学習をすれば出席扱いになるということ、対象となる児童の 6 割以上が知らなかったという話もあったようです。
- 不登校の子どもが、学校以外でも輝くことができるような場を作っていくかといけないと、不登校の子どもの数が増えている現状を見ながら思っておりますので、また議論させていただければありがたいなと思っています。
- 先ほど子育て世帯の流入が増えているということで、大変喜ばしい話だなと思っていましたが、箕面市の課題として、合計特殊出生率が国や大阪府よりも低いというところで、今回レベルアップ事業をして、そういった状況が改善されるのか、流入はしているんですが既存の方が産みやすい環境になっているのかというところは、引き続き注意深く見ていただきたいなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(箕面市教育委員会：藤迫教育長)

- 1 点目のタブレットの話は非常に悩ましい話で、全児童生徒に 1 人 1 台タブレットが配布されて、今定着し始めていて、おっしゃっていることはよくわかるので、それはまた教育委員会の中でしっかり議論していきたいなと思います。

- しかし今の子どもたちは、もうこれを扱える力がないと社会に出て行けない、例えば受験できないとか、就職活動ができない、生きていけないという時代になっていくと思います。私たちはまだ辛うじてこのまま、使わないまま終わってしまう可能性がありますけども、今の若い子どもたちはそうではないということもあるので、納得が得られていないのは、上手く使えていないから出てきている意見だと思いますので、もう一度教育委員会の中で事務局を通して議論していきたいと思います。
- 不登校の子ども居場所につきましては、先ほど話しました校内支援センターの拡充ですとか、フレンズの実施場所が狭いのもっと広くしよう、又は思い切って公共施設の余裕のあるところに持っていくというようなことができないのかということも、検討し始めています。
- 子育て世代の流入というのは、引き続きしっかりやっていこうと思っています。
- 1点目のタブレットの話は宿題として、非常に重く受けとめておりますので、何らかの答えを出せるようにしたいと思います。

(箕面市：原田市長)

- 合計特殊出生率は流入を促すというか、既存の人たちが産みにくい環境がどこにあるのかということは、引き続き見て行ってほしいです。流入とは別に、既存の人たちがどこに産みにくさを感じてるのかというところをしっかりと見ていかないといけないと思いますので。

(事務局：藪本局長)

- 特にご意見ないようでしたら、これで会議を閉会させていただいてもよろしいでしょうか。

(異議の声なし)

- では以上をもちまして、令和7年度第2回箕面市総合教育会議を閉会いたします。皆さん本日はどうもありがとうございました。